



佐野市立あそ野学園義務教育学校で農業者による講話を実施 【農業への理解促進みのりす】

令和2(2020)年8月27日
安足農業振興事務所

8月27日 佐野市立あそ野学園義務教育学校の学校行事「進路講座～コロナ禍によるマイチャレ代替活動～」(総合的な学習の時間)と連携し、第8学年生(98名)を対象に、農業の理解促進等に向けた講話を行いました。

- ・講師は、有限会社篠原ファーム友米家 専務 篠原由拓氏にお願いし、「1億円プレーヤーを目指して」という演題で、これからの農業、職業観、若い人に伝えたいことについて、学生時代の話、消防士から農業に転職した経緯等も交えて講話をしていただきました。

【講話内容】

- ・これからの農業は、ICTやAIを活用して、効果的に作業できる。
- ・子供の頃は、仕事がきついか汚いか、農業に対するイメージが良くなかったので、社会貢献もでき安定している消防士になった。あるとき、親の姿を見て農業もいかなと思ひ、後悔したくないので農業を始めた。今では、良いイメージになるよう頑張っている。
- ・農業でも「1億円プレーヤー」になれるし、知り合いで2億、3億円を稼いでいる人もいる。
- ・若い人には、次のことを伝えたい。
①思った時に思ったことをしないと後悔する。失敗してもやり直せるので、色々なことを体験してほしい。②何かあった時、どうしてこうなるのか考え、分からなければ、大人はその疑問を解決することに力を貸してくれる。③自分自身を好きでいてほしい。今後、人生の分かれ道に来た時、自分を肯定し、自分で進む道を決定してほしい。夢を持ち続けてほしい。
など

- ・生徒から「どんな時に達成感を感じますか、消防士から農業に転職した決め手はなんですか。」などの質問や、「今しかできないことをやりたい。今日の話が学校生活や将来に役立てていきたい。」などの感想も出るなど、生徒の関心が高かったように感じました。
- ・校長先生からも、マイナスのイメージを持っていた農業を、色々な経験を経て、誰もがあこがれる職業にしたいと考えていることが分かり、生徒達が進路を決める上で参考になったのではないかと評価をいただき、取組の重要性を実感しました。

